

「作業員の安全を最優先」

好川産業 パントレ

好川産業大阪市、好川久雄社長が水系はく離剤「パントレ」を開発販売を始めてから8年。昨年度までに、橋梁塗替え工事などに約70万㎡分の材料を出荷した。これに加え、有害物質対策資機材のトータル提案まで、「作業員の安全を最優先」と考える事業展開。来年で満100歳になる老舗は、いつも市場ニーズの最前線に立っている。

はく離剤 最前線⑥



はく離作業の指導は(好川産業提供)

パントレは、国土交通省が実施し、はく離剤メーカーなど10者が参加した「土木鋼構造用塗膜剥離剤技術」試験(2019年に結果公表)で、有害な化学成分の検知が最も

少なかった。同社マーケティング部の津野誠司部長は、「メーカーとしてパントレの安全性を追求した上で、塗装商社の立場から安全衛生の保護具や資機材などをトータルで提案できることが当社の強み」と胸を張る。

津野部長ははく離剤に注目したのは10年前。鋼橋の塗替え工事現場に資

機材を納入した時、はく離剤を使った塗膜はく離作業を初めて目にした。衝撃的な光景だった。「近いうちにニーズが高まり、新しい市場になる。当社も品揃えに加えない」。当初は既存製品の扱いを検討した。しかし、メーカー直販や独占販売という壁があった。

「自社ブランドを作るしかない」。自動車向けに実績を持つ化学メーカーと協力し、橋梁・土木

向け製品を開発した。当初は知名度不足もあり、ほとんど売れなかったが、施工者に頼み、費用持ち出しで小面積の試験施工を地道に繰り返して、製品資料を整えた。

「その資料を見てくれた人が沖縄県にいた。2014年、塗膜に鉛を含んでいた同県管理の大保福地橋の塗替え工事3800㎡に採用された。津野部長は、パントレの開発者で同社技術開発部の古角孝洋セクションリーダーと現地へ。

古角リーダーは振り返る。「うれしかった。自社製品で、塗膜が面白いほど剥がれていた」。

これをきっかけに、阪神高速道路会社で2万㎡、大阪・堺市や九州各地の発注工事なども実

績を広げた。それでも初心を忘れず、現場に行って施工者の声に耳を傾けた。臭い

能力が落ちる、という指摘にはアルコール量を委えるなど、要望に応えた。「現場で喜ばれる製品に、という一心だった」。

2人は「今後も安全最優先。その上でオールシフトのほく離能力を上げ、各地に実績を拡大したい」と抱負を述べた。

2人は「今後も安全最優先。その上でオールシフトのほく離能力を上げ、各地に実績を拡大したい」と抱負を述べた。

2人は「今後も安全最優先。その上でオールシフトのほく離能力を上げ、各地に実績を拡大したい」と抱負を述べた。

2人は「今後も安全最優先。その上でオールシフトのほく離能力を上げ、各地に実績を拡大したい」と抱負を述べた。